

26年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 11月20日～ 26年12月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
入荷動向	スギ	5.6	5.6	11.1
	ヒノキ	0.0	△ 21.4	△ 21.4
	カラマツ	△ 50.0	50.0	50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
消費動向	スギ	△ 11.1	△ 5.6	0.0
	ヒノキ	0.0	△ 7.1	△ 7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 75.0	△ 75.0
在庫動向	スギ	7.1	7.1	7.1
	ヒノキ	△ 8.3	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 50.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は3ヵ月連続して増加、ヒノキは12月の横ばいが27年1月、2月には減少に、カラマツは12月の減少の後、27年1月、2月は増加に、トドマツは3ヵ月連続して減少。
・スギの原木消費は12月、27年1月の減少から2月には横ばいに、ヒノキは12月の横ばいから27年1月、2月は減少に、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは3ヵ月連続して減少。
・スギ原木の在庫は3ヵ月連続して増加、ヒノキは3ヵ月連続して減少、カラマツは12月の減少の後、27年1月、2月は増加、トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/12月	27年1月	2月
スギ	6.3	6.3	△ 6.3
ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	△ 14.3
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギの原木価格は3ヵ月連続して横ばいで推移、ヒノキは3ヵ月連続してやや弱保合、カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばいで推移。

モニターからのコメント

（原木荷動き）・

・カラマツは生産量に対して入荷量が減少、農繁期で輸送対応の遅れが主な要因。価格は保合。トドマツは使用量が少ないことで入荷制限している。カラマツ梱包・パレット向けは当月も堅調な需要で推移トドマツは羽柄材関連での出荷が低調のまま。カラマツは径18-24cm及び13-14cm材が平均的に少なく、原木の大径化が進んでいる。トドマツは下期が出材期になるが、北海道内では製品需要期から外れるので年度末までに過剰在庫にならないか心配。

・トドマツ原木入荷順調、国有林（システム販売）も出材順調。受注変わらず順調、冬季に入り凍結、休日増で消費は減少。

・スギは伐採適期となり、入荷増、ヒノキは販売減のため仕入減。スギ販売好調、ヒノキ販売不振。ヒノキは仕入減で在庫減少。

・ヒノキは時期的に順調に出材、在庫多いため仕入は調整中。

・スギは、市場での流通は横ばいだが、当方の手当ては進んでおりやや買い控え、ヒノキは減少傾向だが、製材予定が多いため仕入に注力。ヒノキの製材数量は変えない、スギとヒノキのバランスにより変動。在庫量の総量は変えず、2月頃に冬伐り材の手当てで検討。

・1月は出材が減ると予想、雪次第で出材がどうなるか。出荷の様子を見ながら消費、在庫をコントロール。

・スギ、ヒノキの出材は決して多くないので徐々にではあるが原木在庫が減少している。消費は原木出材、入荷動向に比例。季節的に入荷少なく在庫の積み増しが難しい。

・とうとうとうとう秋需はなかった。

・極端な増加はないが、順調に入荷している。

・積雪の影響は多少あると思うが、基本的には変わらずでは。消費は入荷に比例。

・素材平均単価高騰して居るため、仕入れ減。製品単価が下がっているのと素材平均単価が上がっているためやや減少。

(原木価格)

- ・トドマツは国有林公売価格は高値安定。
- ・スギ、ヒノキは伐採適期となり、生産増となるため価格はやや低下と予想。
- ・ヒノキ並材は特に弱気。
- ・スギは製材品の荷動き悪く、ヒノキは先行き下げのため量が少なく無いもの高。
- ・雪次第、基本的には大きな変動はないと予想。
- ・出荷が少なくなると価格は下がらない、むしろ上がる。
- ・製材メーカー以外の外的要因（輸入やバイオマス等）による原材料不足による若干の価格上昇が見込めるのでは。

26年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
生産動向	スギ	5.6	5.6	11.1
	ヒノキ	7.1	△ 7.1	△ 14.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 75.0	△ 75.0
出荷動向	スギ	11.1	5.6	5.6
	ヒノキ	△ 14.3	△ 7.1	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 75.0	△ 75.0
在庫動向	スギ	0.0	△ 5.6	5.6
	ヒノキ	0.0	7.1	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギ製材品の生産は3ヵ月連続して増加で推移、ヒノキは12月の増加の後27年1月、2月は減少に、カラマツは3ヵ月連続して横ばいで推移、トドマツは3ヵ月連続して減少で推移。
 ・スギ製材品の出荷は3ヵ月連続して増加、ヒノキは12月、27年1月の減少から2月は横ばいに、カラマツは3ヵ月連続して横ばいで推移、トドマツは3ヵ月連続して減少で推移。
 ・スギの在庫は12月、27年1月の減少から2月は増加に、ヒノキは12月の横ばいから27年1月、2月は増加に、カラマツは3ヵ月連続して横ばいで推移、トドマツは3ヵ月連続して減少で推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	△ 5.6
	柱角 KD12×3	△ 16.7	△ 11.1	△ 11.1
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	タルキ	8.3	0.0	0.0
	間柱	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 21.4	△ 21.4
柱角 KD12×3		△ 33.3	△ 21.4	△ 21.4
土台角 10.5×4		△ 14.3	△ 14.3	△ 14.3
土台角 12×4		△ 28.6	△ 21.4	△ 21.4
通し柱 12×6		0.0	0.0	0.0
ラミナ		0.0	△ 10.0	△ 10.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の価格は、柱角KD12×3及び母屋角がやや弱保合で、その他はほぼ保合で推移。
 ・ヒノキの製材品価格は、通し柱が横ばいである他は、全てやや弱保合ないし弱保合で推移。
 ・カラマツ、トドマツ製材品は横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・生産受注は堅調。年末・年始休業、凍結で1月～2月は生産減。生産、即出荷続く。
 ・スギは販売好調で生産増、ヒノキは販売不振で生産減が続く。スギは在庫不足で生産即出荷となる、ヒノキは出荷横ばいで在庫薄となる。
 ・ヒノキ製材品の公共物件受注。
 ・生産はヒノキに注力、製材稼働日数は変えず。出荷は12月末～1月初旬も大きな落込み無く推移、2月に一服感あり。在庫総量は変えず。
 ・ヒノキ生産は、増えもせず、減りもせず10月、11月と同じ位。12月出荷量は少し減る見込み、来年1月～3月は今年の9月～11月並みと予想。在庫は増やすよりは減らす方向にコントロールする。
 ・生産は丸太出材動向に比例、秋需はなかった、1月～3月は更に厳しくなる見通し。原木単価が高値安定のため在庫品一掃ができない。
 ・生産は原木状況にもよるが、基本的には変化せず。消費では、住宅着工戸数の落込みや現状ではあまり施主に対してメリットのある環境ではない(特別な優遇やポイント制度等がない)ため、資材流通は厳しいのでは。製品の動きが鈍いため、大手メーカーの投売りによる価格下落が心配。
 ・受注量が少なく、製品出荷に合わせている。需要が少ないためか注文が少ない。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサングキ輸入材高値。
- ・販売不振だが、外材が円安で強保合となると思う、結果、当分は横ばい。ヒノキ集成用ラミナも円安で外材が強いと思われ、横ばいを予想。
- ・ヒノキ弱含み保合、値段を下げてでも売れる量は変わらない。
- ・スギ柱角がやや弱含み、競合樹種の価格次第。ヒノキは先行きの悪さから安値も散見、大きくは変わらず。
- ・ヒノキ集成材は上がる。製材品は変動はないと予想、あるなら上げ方向。
- ・スギ柱角が採算の見合う単価で販売できなくなっている。ヒノキ土台安値材が流通しているので、単価上がり。売り込みによって更に下落する。

26年12月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	0.0	△ 100.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入は12月の横ばいから27年1月、2月は減少に。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばいで推移。

・米マツ丸太の消費は12月の横ばい、27年1月の減少を経て2月は横ばい。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばいで推移。

・米マツ丸太の在庫は12月の横ばい、27年1月の増加を経て、2月には横ばいに。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばいで推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/12月	27年1月	2月
米マツ丸太	50.0	0.0	△ 50.0
NZラジアータ丸太	50.0	100.0	100.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ丸太の価格は12月の強保合が、27年1月は横ばい、2月は弱保合に。NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して強保合ないし強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・NZラジアータ丸太は例年より需要少ない。

(原木価格動向)

- ・NZラジアータ丸太は為替円安で大幅上昇。

26年12月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	0.0	△ 100.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	△ 50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は12月の減少から27年1月、2月は横ばいに、NZラジアータ製材品は12月の横ばいから27年1月、2月は増加に。

・米マツ製材品の出荷は12月の横ばいから、27年1月の減少を経て2月は横ばいに、NZラジアータ製材品は12月の横ばいから27年1月、2月は増加に。

・米マツ製材品の在庫は12月の減少が27年1月、2月は横ばいに、NZラジアータは3ヵ月連続して横ばいで推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
米マツ平角		0.0	50.0	50.0
米マツ正角		0.0	50.0	50.0
米マツ小割		50.0	50.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	50.0	100.0
NZ梱包材(割角)		0.0	50.0	100.0
NZ土木用材		0.0	50.0	100.0
その他		—	—	—

・米マツ平角及び正角の出荷価格は12月の横ばいから27年1月、2月は強保合ないし強含みに、米マツ小割は12月、27年1月の強保合から2月は横ばい

・NZ梱包材、土木用材は12月の横ばいから27年1月、2月には強保合ないし強含みに。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・2月より製品値上げ予定、1月は注文増になる。

(製材品出荷価格動向)

・2月より10%~15%値上げになる見込み。